



「男社会」のイメージが根強い建設業界や運輸業界にも、生き生きと輝く女性たちがいます。実力はもちろん、女性ならではの視点や魅力で、それぞれの業界に新しい可能性を吹き込んでいきます。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催やリニア開発など華やかな話題の裏で、現場で活躍する担い手不足が心配されている昨今。誰もが働きやすい環境の整備は、今後ますます重要になってくるでしょう。業界のこれからを映し出す女性たちの活躍を特集します。

特集 輝く女性 の力



女性がイキイキと輝き、 長く働き続けられる 業界を目指して

以前に比べ、近年は男女で職業の選択や働き方に差がなくなってきました。しかし体力面やライフサイクルに男女の差がある以上、企業や働く女性が越えなければならぬさまざまな課題があることも事実です。いまだ「男社会」のイメージが強い建設業界や運輸業界において、女性活躍を推進している担当者に、課題や目標を聞きました。

女性が働きやすい職場は 誰もが働きたい

——建設業界も運輸業界も共にまだ「男性の職場」というイメージが強いですね。
木村 建設業における女性の割合は全体の3〜4%とかなり低いのが現状です。女性の就業者数がピークだった平成9年時点では約26万人いましたが、その後の景気後退による競争激化などによって、女性就業者数も減っていき、昨今は約10万人にまで落ち込んでいます。これを5年以内に倍増させようという目標を掲げ、業界と連携して女性活躍を応援するさまざまな取り組み

を行っているところです。

神澤 運輸、特にトラック業界も、女性ドライバーの割合が2・4%と極めて低く、中高年の男性ドライバーに大きく依存している状況です。昨年の消費税増税前などには、物流が大幅に増えてトラックが足りないという事態が発生しましたが、いびつな就業者構成がこのまま続くと、同様の事態が今後恒常的に起こりかねません。そうした中で、女性ドライバー（トラガール）というのは非常に大きな戦力であり、トラック業界に新たな風を吹き込んでくれる可能性があるかと期待しています。実は、取得までに時間も費用もかかる

大型免許を保有する女性は、全国に約13万人もいますが、このうち大型車のドライバーとして仕事をしている女性は約8千人しかいません。せっかく大型免許を取得しているながら就業につながないという事は、なんらかの要因があるのだろうと思われ、それを解決することで女性ドライバーを増やしたいと考えています。

——女性の就業者が多くなると、どんな効果が出ると思いますか。
木村 建設業でも若年者不足や高齢化が課題です。中長期的な担い手不足が懸念される今こそ、現場環境改善や働き方の見直しによる業界のイメージ

土地・建設産業局建設業課 課長補佐 木村よし子

「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」の策定に携わる。数ヶ月に一回、仕事を通じて知り合ったゼネコンや建設コンサルで活躍する女性で集う「けんせつ小町会」に参加。自らも二児の母として、周囲に支えられながら仕事と育児に奮闘中。子どもと共に、通りかかった工事現場のチェックは欠かさない。



建設業における 女性活躍の応援

女性のさらなる活躍を目指し、平成26年8月に国土交通省と業界団体で『もっと女性が活躍できる建設業行動計画』を策定。誰にでもわかりやすく『10のポイント』で紹介。

建設産業で働く女性がカッコイイ

<http://genba-go.jp/know/woman/>

建設業で活躍中の女性、活躍したい女性を応援する総合ポータルサイト。



もっと女性が活躍できる建設業行動計画（10のポイント）

女性技術者・技能者の5年以内の倍増を目指す

- ① 建設業界を挙げて女性の更なる活躍を歓迎
- ② 業界団体や企業による数値目標の設定や、自主的な行動指針などの策定
- ③ 教育現場（小・中・高・大学等）と連携した建設業の魅力ややりがいの発信
- ④ トイレや更衣室の設置など、女性も働きやすい現場をハード面で整備
- ⑤ 長時間労働の縮減や計画的な休暇取得など、女性も働きやすい現場をソフト面で整備
- ⑥ 仕事と家庭の両立のための制度を積極的に導入・活用
- ⑦ 女性を登用するモデル工事の実施や、女性を主体とするチームによる施工の好事例の創出や情報発信
- ⑧ 女性も活躍しやすい教育訓練の充実や、活躍する女性の表彰
- ⑨ 総合的なポータルサイトにより情報を一元的に発信
- ⑩ 女性の活躍を支える地域ネットワークの活動を支援

H26.8.22 国土交通省・建設業5団体策定



自動車局総務課
専門官 神澤直子

全国各地のトラック事業者を訪ね、業界の現状を把握。初めてトラック事業者を訪ねた際、ドライバーの方々の優しさを感じ、業界の活性化に向けて全力を尽くすことを決意。日本経済を支える屋台骨であるトラック事業が、社会的に正当に評価されるよう、業界改革に平行して事業のPR活動に邁進中。

労働環境改善のきっかけに

大型車は停車できる場所が限られるため、トイレ不足は死活問題。これには男性も悩んでいたが、女性の進出が課題を浮き彫りにした。一部の企業では業務用の地図に利用できるトイレを記載する工夫も生まれている。労働環境の改善は男女両方に恩恵をもたらす。



トラガール(トラック+ガール)のシンボルマーク。女性ドライバーのトイレ利用を歓迎してくれる店舗・施設の見印としても活用されている。

トラガール促進プロジェクト

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/tragirl/>

現場で活躍する女性ドライバーの実際を数多く紹介。全国の女性ドライバーを応援、推進するプロジェクトの情報サイト。

アップが不可欠です。例えば、一般的に女性への配慮と捉えられがちな清潔なトイレや更衣室がある現場は、女性だけでなく誰もが望むものではないでしょうか。また、我が家もそうですが、近年は共働き世帯や介護世帯が増えており、男女問わず仕事と家庭の両立環境整備が必要です。保育園への送り迎えに対応できるような勤務時間の見直しや、子どもの急病対応休暇に備えた周囲のバックアップ体制の整備など、ソフト環境改善を望む声があります。「女性が活躍できる建設業」を目指すことは、「男女問わず誰もが働きやすい産業」につながると思います。

神澤 同感です。昔に比べて、今の若い男性は仕事だけでなく、家事も育児も参加したい人が多いように思います。こうありたいと思う生活スタイルを誰もが無理なく実現できる職場環境をつくるには、「女性が働きやすい職場」をつくるべき道ではないでしょうか。また、女性が生き生きと働いている業界というのは、先

的で働く人に優しい業界というイメージを持たれると思います。運輸業界はやや粗野なイメージを持たれることが多いので、女性が増えることで業界のイメージアップにもつながりたいと思っています。実際の現場はとも優しい男性が多いのに、異なるイメージが強いのももったいないですね。

女性が働きやすい環境を業界と共に整えることが不可欠

——どうしたら女性が増えると考えますか。

神澤 まず、業界全体で女性を受け入れようとする意識がまだ低いこと、一般の女性がドライバーという職業をとってもハードルが高いと感じていることといった「意識」の問題をクリアすることが必要だと思います。そこで、国土交通省ではトラガールサイトの開設などを通じてPRを強化している他、あらゆる機会に事業者の意識改革に向けた啓発を行っています。また、トラックを停めて安心して利用できるトイレの少なさを、特に長距離輸送の場合に車内で寝泊まりするような勤務形態など、就業環境の改善が必要だと考えています。トイレ問題の改善を図るために、コンビニエンスストアやガソリンスタンドに協力を依頼している他、「安心してトイレを利用できる場所」という目印となるトラガールステッカーの普及に努めています。

木村 まずは、皆さんに建設業が女性も活躍できる業界であることを知っていただくことが必要だと思います。経営者の方からは「女性を雇い育てても、辞めてしまうのではないか」という声を耳にします。トイレや更衣室などの環境整備に併せ、家庭と両立のできる働き方へのソフトや産休・育休制度の整備など、「女性が働き続けられる環境づくり」は中長期的に見れば女性だけでなく経営者にとってもメリットになるのです。こういった意識改革のもと、業界と一丸となって、できることから環境を改善し、建設業の魅力や活躍する女性の輝きを発信し続けることが大事だと考えています。

神澤 すでに女性が多く活躍する事業者からは、女性ならではの気遣いや高いコミュニケーション能力など、女性ドライバーを非常に高く評価する声の間かれます。取引先との日頃のおしゃべりを通じて、新たな仕事を受注したといったように、営業面でもプラスに働いているといった事例もあるそうです。男性に比べて体力やパワーでは劣るかもしれませんが、フォークリフトなども積極的に使うことでハードルは越えられます。業界団体などと連携しながら、働きやすい環境整備に取り組んでいきたいと思っています。

——男女差を感じさせない環境をつくり、業界を活性化させたいですね。